

2017年 展覧会

西中千人展

- 3月22日 - 28日
米子高島屋 美術サロン
- 4月26日 - 5月2日
岐阜高島屋 美術画廊
- 5月31日 - 6月6日
岡山高島屋 美術画廊
- 6月21日 - 27日
日本橋高島屋 美術画廊
- 7月12日 - 18日
長崎浜屋 美術ギャラリー

アートフェア

- 1月11日 - 15日
LA ART SHOW (ロスアンゼルス)
- 2月2日 - 6日
COLLECT (ロンドン)
- 3月16日 - 19日
アートフェア東京
- 6月29日 - 7月5日
MASTERPIECE (ロンドン)

Nishinaka Yukito Glass Studio

〒299-4104 千葉県茂原市南吉田2967 TEL: 0475-34-7850
<http://nishinaka.com> e-mail: ichiban@nishinaka.com



西中千人通信

2017年 早春号

ガラスは割れる、人は死ぬ
だから、今を精一杯生きる

ヒビで生命の輝きを表現した
「呼継」に加え
新たに「ヒカリ包む」を発表します。

光の粒を溶けたガラスで包み込み
強さと儚さで
生命のエネルギーを形にしました。

M. デュシャンが「泉」を発表し、
芸術の常識を覆してから
今年で100年。

ますます混沌とした今、
私は、伝統を温め、人間力を磨き
「心の在り処」を追求します。

千二百度に溶けた六百キロの
ガラスを流し込んでいます



日本耐酸壘工業株式会社との共同研究により、
回収ガラスびん 70% をリサイクルした
巨大ガラスオブジェの鑄造に挑戦しています。

「アート」×「環境」×「日本文化」×「産業」がシンクロし、
地球資源の循環型社会を文化的に実現するプロジェクトです。

ひとつのガラスオブジェが完成するまで2ヶ月。
このオブジェ数体が立ち並ぶ、枯山水庭園の概念を礎とした
ガラスアート空間——
「宇宙の一瞬」としての自己の存在を実感し、自分の内と外、
過去と未来を静観する現代版「瞑想の庭」を創出します。

ロンドン・シカゴ・パリで「ガラスの呼継」を発表

海外でもアートフェアやイベントに
参加させていただきました。
「ガラスの呼継」は
アメリカ最大のガラス博物館
コーニングの学芸員や
ガラス専門家からも、
日本の美意識を感じる
独創的な作品であると
深い関心を示していただきました。



大自然との調和 和の空間でガラスアート



大自然に囲まれた那須の老舗旅館 板室温泉大黒屋にて
ガラスの庭とアート空間を設え、ガラスアートと共に過ごす
展覧会をさせていただきました。

光そのものとして存在するガラスは、大自然と調和し、
ゆったりと流れる時間の中で一刻一刻と表情を変え、
場に生命を吹き込みました。

日常を離れ、旅館でじっくりとアート作品と向き合い、
作品を通して自分自身と対話する時間を
楽しんでいただけた展覧会となりました。



コラボレーション

大阪展では、小原流家元 小原宏貴さんと
コラボレーションをさせていただきました。
伝統のいけばなや前衛的な造形作品と
融合することで、
ガラスの呼継が、今までにない
豊かな表情を発しました。



対談

横浜展では、菊池寛実記念 智美術館学芸部長 花里麻理さんと、
呼継の過去と未来、これからの表現について対談させていただきました。
叩き壊して新たに創り上げるガラスの呼継を「衝突の美学」と
解釈されるなど、わかりやすくお客様にお話しいただきました。

(「月刊アートコレクターズ」2016年12月号に掲載)

感性の豊かな表現者や研究者と創作や考察を交えることで、私自身も
大いに刺激を受けたイベントとなりました。
お客様も楽しく作品への理解を深めていただけたようです。

薬科大学での学びが今の自分に与えた影響

薬学誌でのインタビューで、
化学薬品がヒトの体内で薬効を表す仕組み(作用機序)を考える訓練が
形のない思想から作品を創り出す発想の基礎になっていたんだと
あらためて気づきました。
知識と理論の上に創る科学は、芸術と同様にとっても創造的です。

勿論、星薬科大学で学んだ無機化学の知識は、
ガラスの性質を理解する上で大変役立っています。

インタビューでは、薬剤師から芸術の道に進んだ経緯、
私にとって芸術とは、中国留学、アメリカ留学、薬学生に一言などを
お話しさせていただきました。

『薬学がくれた私の道』
異分野に進んだ薬学出身者へのインタビュー
日本薬学会発行 「ファルマシア」 2016年10月号

新しい試み

美術画廊とは異なるスタイルで 作品を発表させていただきます。
楽しい企画を準備中です。

5月3日-14日 新宿伊勢丹 本館5階 ウェストパーク
5月15日-23日 三越日本橋本店 本館5階 特選和食器売場
9月末頃 (予定) 銀座和光 本館地階



2016年 心を打たれた Best 3

- 「禅-心をかたちに」展 (東京国立博物館)
作者の感性、洞察力と技術を持って木を彫刻した作品を通して
モデルとなった尊者の生き様が伝わってきました。
「心の在り処」を伝えるのが表現であり、
技術や意匠は、そのための道具だと実感しました。
- 「無一物を観る茶会」
利休好みを長次郎が形にした重要文化財 赤楽茶碗「無一物」を
手に乗せて、「無作為」とは、作り手の作為を押し付けるのではなく、
観る人の心を受け入れる「包容力」だと体感しました。
- 「靈巖洞」
宮本武蔵が、戦いに生きた己のすべてを残そうとした
「二天一流兵法書」通称「五輪書」を書いた場所。
死を目前にした天才は、ここで人生を振り返った。
樹々を越えてくる空気に包まれ、ひたすら静寂な空間で、
武蔵と共に「人間が生きるとは」を考えました。